

発行所株式会社空調タイムス社
本社 (〒105-0013)
東京都港区浜松町1-23-2
(山下ビル)
電話代表番号 東京3433局6501
FAX: 東京 3433-6505
関西支社 (〒530-0015)
大阪市北区中崎西1-4-22(梅田東ビル)
電話代表番号 大阪6312局6061
URL https://ac-times.com

空調タイムス

THE AIR-CONDITIONING TIMES

購読料一カ年22,000円 発行日毎週水曜日

水68

2025年(令和7年)

週刊

第3068号

ベンカン

プレス式火無し継手「冷媒ダブルプレス」

専用工具で空調・衛生工事を兼用

「ダブルプレス」の継手も使用可能に

ステンレス製の衛生配管向け火無し継手「ベンカン」(社長)として、50年の知見を有するベンカン(社長)が、冷媒配管用銅管に適用したプレス式火無し継手「冷媒ダブルプレス」を開発し、急速に空調市場でも存在感を強めている。同社は東京で開催される「第57回管工機材・設備総合展」と、大阪で開催される「第22回管工機材・設備総合展OSA KA2025」に出展し、衛生配管向けのプレス式、拡張式、ワンタッチ式といった各方式の火無し継手を展示する。展示のメインはプレス式の「ダブルプレス」で、7月1日より、冷媒ダブルプレス等向けの専用継付工具「BPN-20R」が、ダブルプレスにも使用できるようになったことをアナウンスする。同工具のプレス部のクリンブジョー(締め付け金具)は冷媒ダブルプレスと兼用。そのため、冷媒ダブルプレスを購入すれば、衛生配管も施工できる利便性を訴求する。

これまでBPN-20Rは、冷媒ダブルプレスと「モルコジョイント」で施工可能だった(使用するクリンブジョーは異なる)。こうした中、同社は更なる利便性向上のため、同工具での使用が可能なるダブルプレス用の新継手を開発し、販売を進めてきた。同社は6月末に、流通在庫を含めて継手が新型に切り替わったことを確認。そこで、冷媒ダブルプレス用の継手口径「15・88」「19・05」「22・22」「25・40」「28・58」に対応した3サイズのジョーが、それぞれダブルプレス用の継手口径「13S」「20S」「25S」で使用可能になったと発表した。同社は50年以上にわたる様々な方式の火無し継手を開発してきた経験から、プレス式の品質や施工性には確かな自信を有している。だが、冷媒配管向けの市場では工具の導入コストがネックになっていると見て、長年のノウハウを活かし、価格を抑えて製品化した(工具と全サイズのジョーをセットにした「冷媒ダブルプレスセット」は46万4千円)。これにより市場



掛川原 豊課長

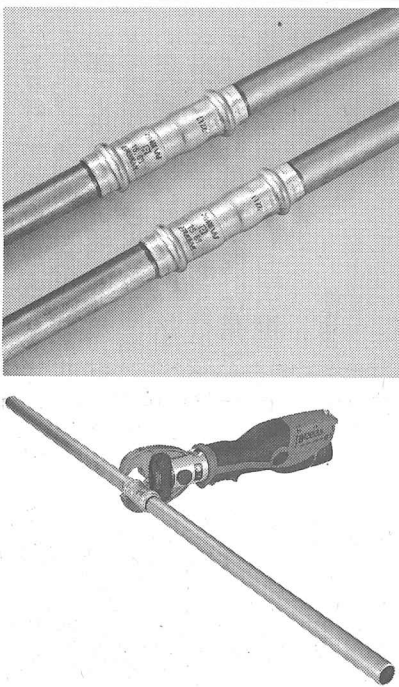


佐藤 蒼太氏

に二石を投じたものの、依然として、空調工事と衛生工事とで2台の工具を購入しなければならなかったことがハードルとなっていた。そこで今回、1台の工具・1セットのジョーで、空調と衛生工事を兼用できる仕様として、導入のハードルを大きく押し下げた。

導入が急拡大 SNSも活用

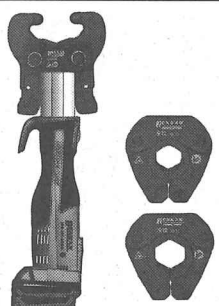
冷媒ダブルプレスは、継手口径は6・35・38・10・13(㎜)まで10サイズで展開。同社ならではの特長と言えるのが、継手がステンレス鋼(SUS304)製であること。対応冷媒はR410A、R32、ISO14903やJCDA0012(冷媒用銅及び銅合金管に用いる機械的管継手)といった各種認証も取得済み。



冷媒ダブルプレスの製品写真(上)と施工の様子

ている。継手口径6・35・28・58㎜までの専用工具であるBPN-20Rは、バッテリーを装着した状態でも重量は3・1キログラムと扱いやすく、片手でも施工が可能(従来の工具の重量は5・4kg)。脚立に乗った状態でも使用でき、またジョーが配管の方向に応じて回転するため、施工性に優れている。同製品は、今年1～3月には200台ほどを売り上げ、一時期工具が欠品するほどの注文があった(現在、在庫は回復している)。一顧客当たり10台以上導入するケースもあり、また代理店で数十台購入して在庫する動きもあった。工具を在庫する動きなどは、他の製品でも「聞いたことがない」(同社営業開発課課長の掛川原豊氏)ほどであり、同社としても想定以上の勢いだったことが窺える。

導入拡大においては、口コミが大きな影響力を持った。大型現場では、協力会社の施工業者が同製品を「使いたい」と声を上げることで、サブコンがこれを了承し、現場全体で採用に至ったケースも出てきている。そのため、大型現場での採用実績が増えている。特筆されるのが、SNSも火付け役になったこと。インスタグラムの同社の公式アカウントでは、ユーザーから寄せられた施工動画を紹介したところ、中には数万回も再生される動画があり、これを起点として、同社には多くのコンタクトが寄せられた。また、業界で著名なインフルエンサー



製品の売上げを大きく引き上げた。この「BPN-21R」は、大口径の継手に関する。12月発売予定の新型「BPN-21R」は、大口径の継手に関する。12月発売予定の新型「BPN-21R」は、大口径の継手に関する。

が販売店の店頭展示会で同製品のデモ施工をインスタライブ配信したことで、数百人の視聴を集めたこともあった。プレス式自体の評価も高い。専用工具による施工性が優れているが、施工後の見栄えの良さも特筆される。ねじ込み式では、取り付け後に接合部が盛り上がり、専用保溫材を使用する必要があるが、プレス式は接合部の盛り上がりがないため、通常の保溫材を使用でき、施工後は、外見から継手の接合箇所が位置が分からなくなる(現場で余った保溫材で足るため、コストメリットも出る)。実際、ある大学の現場では、露出配管だったこともあり、施工主からも見栄えの良さが評価された。また、液管とガス管を横並びで配管する際、ねじ込み式は盛り上がり箇所をすばし捷に配管する必要があり、プレス式はそうした配慮も不要。同製品の売上が想定を上回って急拡大する中、同社は生産計画の見直しも検討する。同社では衛生配管のプレス式「モルコジョイント」と「ダブルプレス」の売上が大部分を占めるが、冷媒ダブルプレスを担当する同社、管理部マーケティング担当の佐藤蒼太氏は、両製品のレベルにまで同

50周年で記念工具
衛生配管向けのプレス式火無し継手「モルコジョイント」は、今年で発売から50周年を迎える。これを記念して、通常、赤色を採用している専用工具に、ブランドカラー「モルコブルー」の青色を採用した記念モデルを50台限定で販売する。両展ではこの記念モデルを展示する。加えて「モルコジョイント50周年感謝祭」と称して、総額50万円相当のプレゼント企画も実施予定。